

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。

あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



2020

2 月号

社会の声（p.6）
「講演後アンケート（学生より）」

- | | | | |
|----|------------|----|-----------------|
| 2 | 理事長挨拶 | 18 | Lovely DAYS |
| 6 | 社会の声 | 19 | プリズムアート倶楽部 |
| 9 | 育児日記 | 19 | 健康相談窓口 |
| 10 | ささきみつおコーナー | 20 | 回復プログラム 入門 |
| 11 | 堀の中のたより | 21 | みんなの！回復プログラム 入門 |
| 18 | つぶやき！ | 22 | 行事予定 |
| | | 23 | お知らせ |

このマザーハウスたよりは、公益財団法人日工組社会安全研究財団の助成により作成したものです。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。／皆様、23ページのお知らせをご覧ください。

表紙…横須賀のコンチョさん
「ガリラヤ湖の漁夫」

理事長挨拶

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年は暖冬で雪不足であるようです。でも、矯正施設にいる方々にとっては、とても厳しい季節だと思います。だから健康には十分、気を付けてほしいです。自分を大切にするために健康に関する学びをしてほしいです。健康について学ぶことで、自分を変えることができ

ると思います。美祢社会復帰促進センターでは、ケアモデルとして講座を実施し、テキストを用いて中谷先生を含む講師の先生から学んでいます。私も講座に参加させて頂き、とても勉強になりました。マザーハウスの当事者たちにも中谷先生から講義をして頂く予定です。多くの受刑者の皆さんに、健康に関する通信教育に参加してほしいです。これは自分自身のためであり、健康でいることを通して命の大切さを学び、心の健康にもつながっていくと思います。

先日、マザーハウスの健康増進ケアモデルに関する事で、名古屋矯正管区の柿崎管区

長、成人第二課の森末部長、下田課長と面談してきました。マザーハウスで健康のためにできることを実践していきたいです。今年の目標である「門を叩く」ですが、自分の健康も同じで、自分でケアしていくことが大切であると思います。私自身、社会復帰してから歯槽膿漏や腰痛のことで苦しみ、今でも腰痛に関しては鍼灸の治療を続けている状態です。そして歯は、前歯のほとんどが入れ歯であり、食べ物も硬いものが食べられない状況です。受刑中にきちんとケアしていなかったことが大きな原因であり、とても後悔しています。だから皆さんには、必要なケアを自分でしてほしいと願っています。

先日、カトリック教誨師連盟の研修会に参加してきました。研修の講師には、九州ダルクの代表とスタッフがいらしており、お話を聞くことができました。自分自身のことをカミングアウトするのは、上辺だけ良い子、上辺だけ模範囚の人ではできないと思います。何故なら、本物の自分と出会っていないからです。肩書や賞与、評価、利得を気にして、取り繕った自分に集中しているからです。

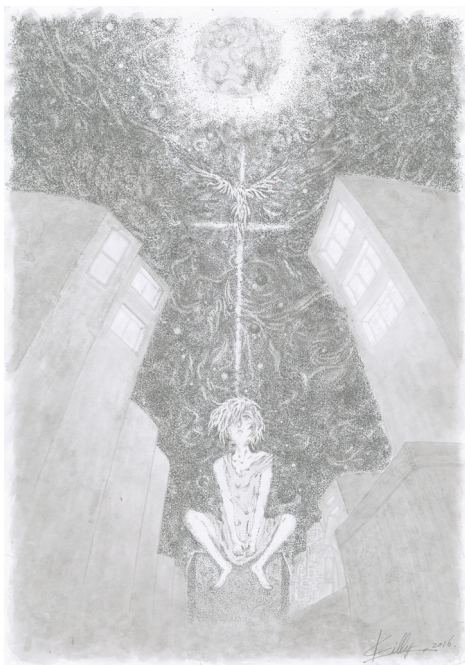
当法人にも薬物事犯の方がいますが、本人が変わりたいと思わない限り、更生は難しいです。皆さんは、覚せい剤は、聖書の「十戒」(出エジプト記二十章)のどの箇所にあたると思いますか？私は十三節の「殺してはならない」だと思います。神様から預かった大切

な命を傷つけるからです。そこからさらに依存症となれば、とても苦しく、辛い思いをします。だからこそ回復は命懸けであると思います。

私が知っている回復方法は、心に十字架を置くことです。物理的にはなく、自分の土台に置きます。神様は善であり、義なので、悪、犯罪とは一切関係ありません。犯罪と縁を切るには、善か悪かを見分け、見分けたことを実行する力が必要です。そして何より重要なのは、神様は「私たちを誰よりも愛してくださり、赦してください」ことです。腸(はらわた)が抉(えぐ)られるような愛で私たちを愛してくださっています。何もかもが順調で余裕のある中で愛する穏やかな愛ではなく、愛する者の苦しむ姿を見ながら、隣で共に苦しむ愛です。だから腸が抉られる愛と表現します。たとえ全てが順調でなくても、見捨てず愛し続ける愛です。私たちが回心するから愛するのではなく、罪にまみれたありのままの私たちを愛してください。

そこで私たちにとって必要な行為は、神様を信じて悔いることです。お話をした九州ダルクの代表も、神様を信じ、悔いたのだと思います。依存の相手を覚せい剤からキリストにしたのです。腹を括ってキリストに依存すれば良いのですから、難しいことはありません。腹を括ることができない人は、更生もできないし、回復も難しいと思います。ただ、

誤解しないで頂きたいのは、キリスト教の信者になれということではないです。キリストを信じ、キリストに生きるということです。これは信者でなくても誰にでもできることです。その結果、偽物ではなく、本物のキリスト者になれるのだと思います。キリスト教の信者ではなく、キリスト者です。偽物の信者は、「偽善者よりも無神論者の方がましである」と、司教、神父、修道士、信者の方々に言ったのではないのでしょうか。教皇は、日本に来日した際、多くの人々に祈りと愛の実践、それも心からの、上辺だけではない、本物の愛の実践をなさいと説き、自ら行動で示しました。



きりさん「ねがい」

一月末に突然、満期出所の方が当法人に来ました。私はその日、NHKの取材と立命館大学での講演会のために京都に行く予定でした。スタッフからの電話で事務所に戻り、生活保護の仮申請、住居（アパート）の確保をし、羽生までその方を連れて行くようスタッフにお願いして、京都、名古屋の出張へ出かけました。ところが出張から戻ったら、その方がアパートから荷物を持っていなくなっており、次の日に警察から連絡がありました。「用水路に飛び込み自殺を図り、救急車で病院に運ばれ、手当てをしていますので、大至急来てください」と言うのです。入院手続きをするので、私に身元保証人になってほしい、また、警察が事情を聴きたいとのことでした。もう呆れかえって、ものが言えませんでした。その後、市役所において生活保護申請を復活させて頂き、受給決定前ですが医療の補助をお願いし、認めて頂いたので、病院での手続きもしましたが、何を考えているのかこの病院の医師は、身元保証人である私に病状の説明をしてくれず、いきなり面会謝絶にしました。

これらのことがあり、バタバタ続きでしたが、その方が何も言わずに行方不明・自殺未遂となったことで、アパートの初期費用や家賃の約三十万円を、（普段は本人の生活保護費から支払うものですが）私が払うことになりました。正直、この人は刑務所でどのような過ごし方をしてきたのだろう、また、刑務

所はこの方に何を指導してきたのだろう、と思います。この件に対して、法務省や行政は何もしてくれず、全ての尻拭いはマザーハウスです。これが再犯防止を謳う国の対応です。怒り心頭の状態でしたが、神様のために実践する、愛のために実践するため、祈りの中で神様に叫んでいます。「あなたが命じたから私は実践します。すべての責任はあなたが取ってください。そして彼を回復へと導いてください。私の怒りを静めてください。あなたの愛で私を包んでください。キリストとして生きることができますように。アーメン」。

先日、ある被告人の情状証人に立ってきましたが、同行した仲間の感想をご紹介します。

☆

今回の裁判は、被告人Aさん（六十代男性）のコンビニでの「窃盗」と「暴行」に関する裁判でした。空腹からわずか七十円の食べ物盗み、店を出た後に店員に押さえられ、振り払おうと怪我を負わせてしまったという事件です。なお、Aさんは一万円を被害者に支払っており、示談が成立しています。

今回の裁判では、代表の五十嵐の他に、東京TSネットの更生支援コーディネーターの方も情状証人に立ちました。東京TSネットでは、逮捕時から福祉的支援につなげるための入口支援を行っており、被告人Aさんの生活環境や犯罪に至ってしまった状況について

ヒアリングを行い、更生に向けた支援計画を立て、サポートを行う支援をしています。

必要なのは刑罰ではなく、

福祉的支援と居場所

更生支援コーディネーターの方のお話によると、被告人Aさんは若い頃から両親・兄弟もなく、どこも頼る先のない孤独と厳しい状況を生きてきて、二十代には躁うつ病の既往歴を有していました。Aさん自身、犯罪を障害のせいにはしたくないと言うものの、「発達障害」の診断に用いる診断シート（DSM-Ⅴ）を用いてアセスメントを行った結果、多動性や衝動性の発達障害が疑われることが指摘されました。

実際、今回の犯行は、炊き出しのご飯や、無料で手に入れたパンの耳などで食べ物で工面する生活の中で、衝動的に行ったものでした。障害ゆえに金銭管理が困難であり、食べていくものに苦勞するという生活の繰り返しの中で、過去にも同様の犯行を行ってきたようです。そして、これまでどこからも支援の手は差し伸べられませんでした。

裁判中、更生支援コーディネーターの方が、Aさんが生きてきた過酷な状況を説明する中で涙を流す場面がありました。Aさんを何とか福祉的支援につなごうと、支援の必要性を

涙ながらに訴え、これまで誰も頼る相手のいなかったAさんを味方するその姿を、横で見ているAさん自身も、ハンカチで目を拭いながら涙を流していました。

代表の五十嵐の主張も同様に、支援の必要性を訴えるものです。Aさんに必要なのは「治療」であって、刑務所では治療が困難であること、社会の中で支えてくれる人との関係の中で、居場所をつくって回復していくことが重要であることを訴えました。

「今回は自分に関わってくれ人が多すぎる。

支えてくれる人を裏切りたくない」

検察側からは、今回の犯行が執行猶予期間中であったことも含め、厳しい追求がなされいと誓ったのではないかと、前回と何が違うのか、という検察側の質問に、Aさんはこう述べました。「逮捕後、拘留所で三ヶ月ほど過ごす中で、更生支援コーディネーターの方が何度も面会に来てくれて、五十嵐さんにもお話を伺い、文通ボランティアの方に繋いで頂いた。両親も兄弟もいない中でずっと一人だったが、今回は自分と関わってくれ人があまりに多すぎる。皆さん自分の時間を削って私に関わってくれている。その人たちの思いを裏切りたくありません」。最後の方はAさんも涙ながらに語る場面となりました。

弁護人からは、「今後どのように生きていきたいか」という質問がなされ、Aさんは、「更生支援コーディネーターや五十嵐さんとの相談のもと、グループホームといったすぐそばに相談できる人がいる環境で暮らしたい」とのこと。「一人でいるとマイナス思考に陥りがちであるため、金銭管理の問題も含め、支えてくださる方のもとでやり直したい」ということでした。

検察側は、自分勝手な犯行とし、支援は出所後でも受けられるのであれば、刑罰として実刑を科すべきと、懲役二年を求刑しました。一方弁護側は、すでに留置場・拘留所で三ヶ月以上を過ごしており、実質的な制裁は済んでいると考え、また、示談も成立していることから執行猶予を求めました。



T刑 Kさん

犯罪者の多くは社会的弱者

今回のAさんのように、多くの「犯罪者」と呼ばれる人たちが社会的弱者であることは珍しくありません。そして、社会的弱者ほど刑罰が重くのしかかります（刑罰の逆進性）。

もともと法務省に所属し、矯正施設の被収容者の処遇（更生支援）を担当してきた実務経験をもつ犯罪学者・浜井浩一さんは、次のように説明します。

「一般的に、家族や仕事があり社会基盤がしっかりしている者や、経済的に豊かな犯罪者は、弁護士への支援を受けやすく、被害弁償を行うことで示談を得やすい。教育水準の高い者は、コミュニケーション能力も高く、取調べや裁判の過程で、警察官や検察官、裁判官の心証をよくするために、場に応じた謝罪や自己弁護等の受け答えができる。その結果、こうした人々は、起訴猶予、略式裁判（罰金）、執行猶予を受けやすく、よほどの重大（または著名）事件または累犯者でなければ実刑判決にはなりにくい。これに対して、受刑者の多くは、無職であったり、離職していたりと社会基盤が脆弱であるものが多い。さらに、教育水準やIQが低く、不遇な環境に育ち、人から親切にされた経験に乏しいため、すぐにふてくされるなどコミュニケーション能力の乏しい者が多い。当然、刑事司法プロセスのなかでは、示談や被害弁償もま

まならず、不適切な言動を繰り返し、検察官や裁判官の心証を悪くしがちである。その結果、判決では、全く反省していないとみなされ、再犯の可能性も高いとして実刑を受けやすい」（浜井浩一「犯罪者とはどんな人たちか？」『加害者臨床』廣井亮一編、日本評論社、二〇一二年）

窃盗や犯罪を繰り返すAさんの「行動」だけを見れば、「全く反省していない」とみなされるが、しかし、Aさんがなぜ犯行に至ってしまったのか、これからどう生きようと考えているのかといった側面、Aさんという一人の人間に目をあてると、必要なのは刑罰ではなく、社会の中の「居場所」や「福祉的な支援」であることが見えてきます。

刑務所に行っても犯罪を繰り返してしまうということは、結局、刑務所では何も変わらない（むしろ悪化する恐れもある）からです。Aさんの更生、再犯防止に本当に必要なことは何かを改めて考えていきたい久々の裁判でした。

☆

私はいつも、「犯罪行為ではなく、目の前にいる人（被告人）を見てください」と言います。刑務所で過ごす人は、皆さんと同じ人間なのです。でも、今に至るまでに様々なドラマがあり、心の深い傷があると思います。誰でも自分の中にある辛くて苦しい傷は見

たくないし、触れたくないと思います。しかし、私はあえて受刑者の皆さんに、その傷と向き合ってほしいです。私自身、その傷と徹底的に向き合いました。そこで十字架のキリストと出会い、深い深い傷にイエス様が触れてくださいました。そして本当の愛を教えてくださいました。だから今の自分がいます。だから逃げずに向き合ってほしいです。

受刑者の皆さんに「年金ガイド」をお送りしましたが、手元に届きましたか？しっかり読んでほしいです。そして受刑中に年金の免除申請をして頂きたいのです。二十歳から六十歳の間に、十年間の保険料の免除があれば、少額でも年金を受け取ることが出来ます。私自身、刑務所に約二十年間いましたが、保険料の免除申請をしていなかったため、とても厳しい状況にあります。受刑中に保険料の免除申請をきちんとしていれば良かったと後悔しています。だから皆さんには保険料の免除申請をきちんとして頂きたいのです。自分の住民票がある市区町村役所に問合せをして手続きをして頂きたいです。

また、年金の相談は無料で受けますが、年金事務所に対しての書類の提出や手続き、年金請求書に関する手続きのための手数料と、受給が決定した場合は年金受給額の十パーセントを成功報酬として頂きますので、ご了承ください。手続きには経費も時間もかなり掛かりますので、ご理解ください。

社会の声

講演後アンケート

★昨年、国士舘大学で講演した際、学生から寄せられた感想・意見をご紹介します。

☆

刑務所の人間も、我々と同じ人間である。「犯罪者」というレッテルは、刑期を終えた時点ではがされるべきなのに、はがされないから就職することも困難になり、再び犯罪に走りやすい（被害者への責任は、一生負わなければならない）。窃盗罪を犯すのと、頭を下げて食べ物を恵んでもらうのでは、自分のプライドが邪魔して頭を下げられないので、犯罪に走りやすい。これらの事が分かった。

☆

正直、元受刑者と聞いた時は、どのような方が来るのかと思いましたが、とても熱く語ってくれている姿を見て、元受刑者という印象が少し変わりました。一般市民が、犯罪歴がある者に差別するような目線を投げかけるのは簡単だなと思った。

☆

出所後にサポートをすることで再犯を防ぐことは、とてもすばらしいと思います。罪を償って、新しい人生を歩むことは大切だということとは分かります。しかし、服役中の受刑者への対応がひどい、同じ人間なのに、という考えはあまり賛同できません。再犯をしにくい人は一定数いて、逆も然り、と考えます。被害者への責任も考えず、反省を全くしない犯罪者には、ちゃんとした対応をする必要はないのではないかと思っていました。しかし、真面目に社会に復帰したいと考える方々は全力でサポートしたいと思いました。

☆

「受刑者にも社会復帰させる機会を与えて欲しい」とおっしゃっていました。私もそれには共感したのですが、国が簡単に社会復帰の機会を与えるのはどうかなと思いました。なぜかという、刑務所に入るという事は、何回も同じ、若しくは、違う犯罪をしたとい

う事になると思います。もうその時点で更生する機会を与えてきているという事だと思えます。なので、その機会を潰してきているということなので、苦勞することも償いなんだと思います。ただ、これから私が元受刑者の人と関わる機会がありましたら、普通に一人の人間として接すると思います。

☆

確かに、再犯防止と謳う割には、社会の受け入れる体勢はあまり無いとは思いますが、それ以上に、一般人の意識がどうしても拒否反応を起こしてしまうところが、社会復帰を難しくしてしまう要因だと思います。企業やらの職場もそうですが、これから仲間になる「かもしれない」人たちの意識がやはり大切なんじゃないかなと思いました。

☆

生活保護を受けに行く事、自分自身が生きるための強い意志を持つ事の大切さを感じられました。又、刑務所の中の様子や、普段見学したとしても分からない側面を知られたことは大きく、影響を受けました。元受刑者という面からも、五十嵐さんの言葉の重みを感じられ、貴重な時間を過ごせました。

☆

刑務所の仕組みの実態と、再犯防止のための国の政策の実態について、主に話をして頂きました。「守れるルールを守らせる事」は、再犯率にとっても直結するものだと思います。自分自身を変える事をしなければ更生に繋がらないため、守れないルールを作ってしまうと、生活が縛られてしまい、その繋がりが生まれることがない。また、人を生かす正義と殺す正義の二つの正義があり、人を生かす正義、つまり、一人の人間として接することが大事だと思いました。

国が現状の再犯率増加の実態をもっとしっかりみて、出所後の生活保護制度を充実させることが、再犯防止への第一歩となることは、なるほどなと思いました。学校で勉強している内容で、再犯率増加の件では、ただお金が無いからとか、受取先がないからとか、仕事が無く生活ができないからとか、「原因」ばかりに注目している事が多く、どう対策していくか、というのは何かと難しい、と教わっているだけでした。

今回こういった話を聞くことで、刑務所の中と外のそれぞれの実態を確認・認識でき、国が動かないと解決は難しいと分かりました。様々な問題や訴えがとても印象に残りました。

☆

今日の講演を聞いて一番印象に残ったことは、正義の話についてです。犯罪学の授業でも、幼い頃の生活や、人間関係が原因で人格が歪んでしまい、犯罪行為に至ってしまう場合があるという話を聞きました。しかし、それでも自分の意思で立ち直っている人もいるということ、私は多少間違えた正義に偏っていました。講演を聞いて、まだまだ自分は世の中を見る視野が狭いと思いました。これからこのような内容をしっかりと勉強して、正しい正義が見つけれられるよう頑張っていきたいと思います。

☆

私がこの講演を聞いて一番衝撃を受けたのは、刑務所の生活は、私が思っていたよりも厳しいということです。最近のテレビや報道の中で、刑務所の中は綺麗になってきていて、過ごしやすいんじゃないかなと思っていたところが正直ありました。



一兵さん

☆
社会の人間の支援も大切だと思いますが、やはり最後は受刑者の心の問題であると自分は考えるので、刑務所内でそのような支援をすべきだと感じた。さらに、心の改善をした人でないと支援しても身にならない反面、支援をしないと社会での居場所が無くなってしまい、再犯が増えてしまうといった問題点も出てしまうところが、社会全体での課題になると考える。

☆

私も、「犯罪をした人たちも同じ人間」と思います。犯罪をした人たちも、神様に深く愛されている同じ人間です。誰でもゆるされる機会があります。以前は、私も「受刑者の回復と社会復帰」についてあまり理解できていませんでしたが、受刑者を自分の家族だと想像すれば、ゆるせると思うようになりました。

☆

五十嵐さんのお話を聞いて、犯罪をしてしまった人、刑務所の中の事、社会復帰後の大変さについてなど、様々なことが分かりました。刑務所の中では、刑務官からいじめがあると聞いて、驚きました。五十嵐さんのお話

の中では、心に突き刺さる言葉がたくさんありました。「社会の常識は刑務所の非常識、刑務所の常識は社会の非常識」は確かにその通りだと思いました。社会から隔離され、自由が奪われた場所での生活が、社会との乖離を生むのは当然だと思いました。

「人を愛する事、大切にすることを知らないから人を傷つけてしまう」。愛情というものは、人から与えられて知ることがほとんどなので、知らない人、人を傷つけてしまっても何故それがいけないことなのか分からず、また傷付けてしまう。人を育てるのは人なんだなと思いました。私は将来、保護観察官を目指しているのですが、「立ち直りたい」と思ってももらえるような観察官になりたいです。

☆

受刑者も人間であることは分かっているけど、正直、殺人とか放火とか暴行とか、大きな犯罪をした人のことを人間だとは思えない。窃盗とかであつたら、罪を償ってくれば自分は人間として接することができると思う。こういう偏見・差別をなくすためにはどうしたら良いのかなと思う。話を聞いて、自分の考えは良くないなと思うけど、やはり元受刑者とか言われちゃうと、怖いと思ってしまう。お金が無くて窃盗する人が多いという話は聞いた事あるけど、日本で物乞いは見たことが無い。話を聞いて思ったけど、もし

自分が物乞いされたら、あげてしまうかもしれない。犯罪をする前にそういう行動を行わなければならないと思った。

☆

刑務所の中の暮らし、義務、温度感等、テレビのドキュメンタリーだけでは、表面的なものを知ることができても、イマイチよく分からない部分がありました。お話を聞いていく中で、刑務所内での扱いがやはり人道的ではないんだなと感じました。テレビドラマを観ていても、被疑者の時点で取り調べの際に怒鳴りつけられたりしていて、なぜ、犯罪に関する対応は人道的でなくなるんだろうか、と疑問に思っていました。

本日、お話をお聞きするまで、私も心のどこかで被害者ばかりがかわいそうだと思ってしまう部分がありました。刑務所にいる方々にいち早く社会復帰してもらうために、刑務所内のルールと社会のルールを一緒にすべきであると思うし、人は、人との繋がりが一番大切だと思うので、文通だけに限らず、コミュニケーションを活発に取る機会が無ければならないと思いました。

☆

私は初めて、前科のある方のお話を直接聞きました。実際に刑務所に入ったことのある

人にしか分からない苦労や困難があると授業で勉強した時とは違った感想を持ちました。本気で更生したいと考えている方がいるなら、私も何か支援できないかと考えました。

☆

話し方がとても熱かったです。それだけ想いが大きいのだと思うし、そして訴えたい事が多いのだと思います。特に講演の中で印象的だったのは、七十二歳のおじいちゃんが犯罪をするのと、「お金がないので恵んでください」って頭を下げるのでは、どっちがいんだ、というお話でした。

☆

本当にどんな理由であれ、犯罪をすることは悪い事だと思えます。だから、社会からこのような扱いを受けるのは仕方のないのだと思います。しかも、どんな状況だって、犯罪をする前は、どんな人も孤独ではないはず。孤独だと思うかどうかです。まず、犯罪をしない。これが当たり前なのです。再犯防止、実現できたらいいですね。本当に犯罪者が心から生まれ変わることを。そして、行動に表すこと。それができなければ、国がどれだけ保護をしても変わらないと思います。でも、そういう心に変えるためには、心の教育も刑務所で行わなければならないと思います。

遠くにいる人を愛するより近くににいる人を愛する方が難しいという言葉は、なるほどなと思いました。目の前にいる人にほど、「ありがとう」という言葉が言いづらかったりしますよね。一番大切な人ほど、すぐそばにいます。そうやって、お互いを大切にしていけば、より良い人間関係ができるから、一人じゃないって孤独を感じる事がなくなるのではないかと思います。

☆

刑務所や、司法的な手続きについて日々学んでいます。法律の根拠などの一方的な視点で学んでいたと思いました。実際に刑務所内での事柄や出来事を具体的に聞き、法律的な視点だけでなく、実務的な視点からも学ぶ事が必要だと思いました。将来の仕事や活動にも役立てていきたいと思いました。刑務所にいた人であっても、あまり差別的な行動を取らないように留意して付き合いたいです。

☆

犯罪をした人、イコール、みんな気が荒くて恐ろしいというイメージが一般的だと思います。正直に言うと、自分も同じイメージは持っていますが、今日話されていたように、社会復帰をしたいという意見があっても、社会は厳しく支援が充分でない、という現状を

知ることができました。また、人を殺す正義、人を生かす正義という言葉がありました。自分は正義感が強い人間ではあると思いますが、人を殺す正義は社会的に言えば「悪（人）を（絶対に）ゆるさない」のが理想にはなると思います。しかし、自分が目指すのであれば、「人を生かす」正義をできる人間になりたいと思いました。

（おわり）

五十嵐亜利沙（妻）による

育児日記

もうすぐ幼稚園を卒業するA君は、入園当初は恥ずかしがり屋だったのに、今は、誕生日会で司会をやるのがワクワクして楽しみ、と言っていて、成長を感じました。次女のRちゃんは、一人で冷蔵庫からアイスを出して、スプーンをとって食べていました。もうすぐ二歳という頃に、こんなに自立するんだと驚きました。

三人で仲良く遊んでくれるのは嬉しいのですが、先日、真冬に三人で裸になり、羽毛布団をお水でびちょびちょにして遊んでいました（泣）。かと思うと、今度は長女と次女がトイレに閉じこもり、大量のトイレットペーパーを便器の中に入れていました（泣）。最後はクレヨンをりんごに刺して遊んでいました（泣）。

ある時は、布団の上に大量のティッシュが撒かれていました（泣）。四人目が産まれたらどんな風になるのかな…。イタズラをしようとした時、誰か一人ぐらいは「これはやめた方がいいよ」と言ってくれるかな（笑）。



ママが妊娠したよ！！

ささきみつお コーナー

上を向いて歩こう

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

創造主は、天には輝く星を散りばめ、地には美しい花を咲かせ、人々はお互いに愛し合うように、造ってくださった。それなのに、私たちは、星にも花にも愛にも、あまりにも無関心ではないか。

創造の凄さ

とても深刻な問題を抱えた人の法律相談をしていた時のことである。その人はあまり悩んでいないようだった。ただ、法律的な手続きを聞きにきたのだ。不思議に思って、その人に聞いてみた。

「ご趣味はなんですか？」

「星を見ることです」

「プラネタリウムかどこかで見るのですか？」

「いいえ、ときどき山に登って、望遠鏡で夜空の星を見ます」

「どうしてそんなに星に興味があるのですか？」

「宝石のように輝く宏大な星空を眺めていると、神様の創造の凄さに圧倒されてしまいます。そうしていると、嫌なことを忘れてしまふんです」

「そうなんですか」

「問題がどんどん小さくなってくるんです。どうしてこんな些細な問題に悩んでいるんだろうって思えてきます」

上を向いて歩こう

その話を聞いてから、背筋を伸ばし、胸を張り、上を向いて歩くようにした。天には太陽も輝いている。天気の良い日は青い空が広がっている。真っ白な雲が浮かんでいる。暗い雲で覆われる日もあるが、天からは時に応じて恵みの雨が降ってくる。

上を向いて歩いていると、悩みで縮こまっている心が解放され、おおらかになってくる。気分が良くなると、悩みは消えてしまう。

私は飛行機の窓から地表を見下ろして眺めるのが好きだ。

野山や河川がきれいに造られた箱庭の中で、マツチ箱の家が立ち並んでいる。細長い道路をおもちやの車が走っている。小さな工場から煙が立ち上っている。そんな中で、人々が暮らしている。まるでメルヘンの世界だ。ずっと眺めていると、自分の問題が小さく思えてくる。

天の父の壮大な創造の中に生かされているが、神の子どもである私たちは、あまりにも些細なことにこだわっていないだろうか。なぜ赦し合うことができないのか。なぜ愛し合うことができないのか。なぜ仲良く生活できないのか。

天には星、
地には花、
人には愛が不可欠だ

家庭裁判所での離婚裁判の後、最寄り駅に向かって歩いていった。道路わきに駐車している乗用車の後部に、この言葉がペイントされている。思わず立ち止まり、しばらく眺めていた。

夫婦の憎しみ合い、子どもの取り合い、財産の奪い合いという、泥々した時間を過ごした後だけに、心にジーンと沁み渡り、さわやかな気分になった。これはゲーテの言葉だと言われている。

天に星がなければ、真っ暗闇である。地に花がなければ生活に潤いがない。人に愛がなければ人生は殺伐としてしまう。

いつも天を見上げて、創造主の偉大な愛の注ぎを受けよう。心がおおらかになれば、道の片隅に咲いている小さな花にも目がとまる。ちゅんちゅん鳴いている街路樹の一片の雀にも思いが向く。花や雀に、「おはよう！」と笑顔で挨拶したくなる。

こうして神の天地創造の素晴らしさに感動し、心から賛美と喜びがあふれてくる。敵対している人をも赦す気持ちになり、心からその人を愛することができるようになる。だから、いつも上を向いて歩こう。

「キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい」（コロサイ三章一節）

「あなたがたは、地上にあるものを思わず、天にあるものを思いなさい」（コロサイ三章二節）



Ｔ刑 Ｉさん

塀の中のたより

受刑者からこんなお手紙が届いています

見た目に美しいにすぎない正義

○刑 ○さん

たより十月号の理事長挨拶を読んでいると、ふと、トルストイの『光あるうち光の中を歩め』の中の一節を思い出しました。それは、パンフィリウスが、ユリウスに語りかけてこう言うところです。

「そういう君自身だって、人間が刑罰の恐れによって悪を慎むよりも、悪をしたがらない気持ちになってくれることを望むだろうと思うんです。牢獄に幽閉されている連中は、看守が見張っているために悪事をしないだけなのだが、果たして君は全ての人がこれと似ることを望むだろうか？人々が悪事をなすことを望まず、善をしようと欲するように仕向

けるには、法律による予防・阻止及び刑罰では功を奏さないでしょう。この目的を達成しうるのは、人間の内部に根を張っている悪に打ち克った時のみです。我々はそれを行っている。だのに君たちは、悪の外的結果と争っているばかりだ。君たちは、悪の根源にまで到達できないだろう。何故というに、君たちは悪を追求しないし、それがどこにあるのかも知りませんからね。そして、パンフィリウスは「…犯罪と戦って成功するには、全ての悪に対するのと同じく愛によって達成するばかり…」と言っています。

また、今、トマス・モアの『ユートピア』の以下の一節を思い出しています。

「あなた方の公正は、本当に公正であり、有効であるというよりは、見た目に美しいというにすぎません。あなた方は、若い人たちが腐敗しきった、淫蕩な空気の中で育てられ、幼い時から少しずつ悪の道に染まってゆくのを平気で見ておられる。そのくせに、彼らが大人になった時に、若い時から、かねがねやりそうだと思われていた悪事を、ふと、してかしてもしようなら、それこそ忽ち（たちまち）神様の御名のもとに処罰なさるのです」という下りです。

トルストイやトマス・モアが扱った問題は、まるでイエスとパリサイ人との問答を髣髴（ほうふつ）とさせますが、現在の私たち

の社会においても笑い飛ばしてしまうことができないテーマであると思います。

裏表のない行動

大阪のピーちゃんさん

私は今、金属工場で計算係の仕事をさせて頂いています。

金属工場という作業の性質上、工場内は、電線をむいた後の皮や金属片等がそこら中に散らばっております。見慣れたそういう光景が当たり前化しておりますが、以前、工場の正担当（刑務官）が「落ちているゴミを認識しつつも跨いで通ったり、知らないフリをしたりしている人をよく散見する」「拾って捨てるなり、せめて端に避けて通路を確保するように心掛けてほしい」等と言っておられて、色んな思いを感じ取ることができました。

まず、見た目がキレイではないし、そのゴミが元で誰かがケガをするかもしれません。また、ゴミが落ちていることに気が付いているのに拾わないのは、苦しんで倒れている人を見て、知らぬふりをすると同じ。自分さえ良ければ良いという無関心な人間にならないでほしい。職員や親等が見ている前だと拾う、誰もいなければ拾わない、といった裏

表がある人間にはならないでほしい。等の、正担当の思いが垣間見えました。

自分の物じゃなくても美しく整える。次に使う人の事、周りにいる人の事を考えて行動すべき場面は、日々の中に沢山あります。例えばトイレを汚さないように使う、テーブルを使った後は拭く、作業服を丁寧に扱う等。裏表のない人が当り前に選ぶ行動は、周囲まで気持ちよくさせてくれます。そして思いやりに溢れています。誰に対しても同じ接し方ができる。人の物も大切にできる。そんな人は自然と安心感を与え、信頼されるのです。う。そんな裏表のない人間を目指したいものです。残刑四年。前を向いてしっかり頑張っていきます。

工場担当（刑務官）の訓話

F 刑 K さん

「会社に遅刻した時、みんなだったらどうする？」と先生（刑務官）は何人かに質問した。すると、「謝ってから言い訳を考えます」等、言い訳をする回答があった。先生は言った、「俺だったら、次の日にいつもより十分早く会社に出社して掃除をする。なぜならば、言葉よりも行動で示す方が相手に伝わるからだ」。

そして、「手紙の検閲の仕事を手伝って感じてたのが、手紙の内容の八割が反省で、残り二割が本やお金の差入れのお願い、という人が多い。せっかく反省していても、ちよつと違うな、と俺は思った」「家族や友人・知人は、やったことは仕方がないと罪に対しては我慢してくれている。でも、それで『物を送れ』とか『本を送れ』とか俺は違うと思う」と話してくださり、印象に残った。

繋がりのお大切さ

A 刑 N さん

この度は、『百万人の福音』で、奥田牧師との対談を読みました。感銘を受けました。確かに心の愛と繋がりが一番大切なことだと思います。悪いから…怖いから…汚いから…関わりたくないから…では、何事も前に進まず、解決することは無いと思います。私が初犯で刑務所を務めた時には、今のよう、作業拒否：「尻割り（ケツワリ）」等の言葉、懲罰は無かったと思います。誰も相手にしない：教えてやらないから、孤立し、いつの間にか作業拒否という懲罰がで、罷り通る（まかりとおる）今日になったのだと思います。作業拒否者は大体が繰り返しで、誰も改善してやらないため、減ることがありません。

社会にいて刑務所に入りたい：刑務所にいて作業拒否をして懲罰を受けたい：その人たちには、誰も手を差し伸べないため、それしか生きる道が無いのだと思います。一人で殻に閉じこもり、独居で懲罰と戦っている人が多いことと思います。

私は工場で就業し、夜は独居等での生活です。決まった時間に聖書朗読をし、その後は『幸いな人』でディボーションに取り組み、心の平安を保っています。この生活を確立してようやく経つので、工場等で注意を受けたり、何かあったりしても、引きずることなくこの時に悔い改め、主から力を頂くので、大きく崩れることがありません。心が崩れないので、生活が荒れたり崩れたりすることなく、入所から無事故を継続することができています。

信仰を続けていると、感じること、学ぶことが多いです。その学びを意識し、みことばを基準にして生活していれば、必ず主が導いてくださり見守っていてくださることを日々実感しています。



元・貴族は餃子好きさん

差入れの冊子等を読んで

○刑 Nさん

送って下さった差入れについてですが、まず「通信教育講座」から。

全三回で今回は一回目とのこと。早速テキストを読み、課題に取り組みました。第一回は、呼吸と歯についてですが、身近で入りやすいところからだと感じました。しかし、テキストを見ますと、知らないことばかりで、大変驚きました。呼吸の大切さや、それが身体に与える影響については、禅やヨガ、瞑想を少し勉強していますから、漠然とは知っていました。実際、テキストを見て、自分の知識・情報が正しかったと確認できる部分も多々ありましたが、知らなかったこともあり、新たな発見を致しました。

歯の方は、知らないことばかりでした。私は毎日食後と就寝前に歯を磨きます。口の中や歯茎、舌もブラッシングしています。自身が健康な歯をしているため、虫歯や歯周病については無知でした。病原菌が血液に入り、悪さをするというのには、ぞっとしました。

皆、誰もが健康は大切だと分かっています。しかし、それを維持するための正しい情報をどれくらい知っているでしょうか。癌は恐ろ

しい病気ですが、原因や治療法について問われると、私は何一つ説明できないのです。大勢の方がそのようなのだと思います。そのため、今回の通信教育講座は大変意義のあるものだと思います。テキストを片手に、健康について学ぶ機会など滅多にないことですからね。次回の学習も楽しみにしています。

次に、「受刑者のための年金ガイド」をお送り頂きましたが、こういった情報やサポートは本当に有難いです。私は服役するようになって、すぐに国民年金保険料の免除申請を致しました。また、長期刑ですので、先々のことを考え、住民登録も○刑の住所に移しました。

私の考えでは、こういった手続きは自分できちんとやっておくのが当たり前だと思っていました。ところが、周りを見ますと、何もやっていない者が意外に多く、驚きました。住民票がどこで登録されているのか分からない者や、年金について何も知らない者もいるのです。仲の良い囚人に「年金どうしているの?」と聞くと、「多分、親が(手続きを)してくれると思う」といった返事も結構あり、「えっ、自分のことですよ?」と逆にびっくり致しました。このいいかげんさ、テキストさ、これが受刑者であり、(刑務所に)来るべくして来たのだと思ってしまうのです。もちろん、きちんと年金を払ったり、免除申請

をしたり、受給手続きをしたりしている者もいます。ちなみに、国民年金保険料の免除申請や、何年か前にあった臨時福祉給付金の申請について、一切、何もしない者に何故なのか理由を聞いてみますと、「手続きが面倒臭いから」とのこと。価値観は人それぞれなのだと思えました。

私の場合は、できることは、すべてきちんとしておきたいと思っていますので、しっかりとやってきましたが、今回のように情報を提供し、促すことによって、気付く者もいると思います。先々困るのは自分自身なのです。官の対応も、十年前とは変わってきています。以前は、「一切知りません。全て自分でやってください」という感じでしたが、今は（この刑務所では）よく相談に応じてくれますし、年金の大切さについてもよく促してくれています。また、住民登録につきましても、（転出手続きは自分でやらなければなりません）この住所への市役所への転入（登録）手続きは官がやってくれます。これは有難いことです。出所後の生活について、皆よく考えるべきだと思います。

次に、「福音たより」は独りで聖書学習をするのにぴったりのテキストです。聖書を片手に、ミサ説教を読んでいます。毎回載っている教会暦も、いつも楽しみのコーナーです。これからもずっと続けてほしいです。

一人ひとりの言動が

マザーハウスの印象を決める

（同じく、）〇刑 Nさん

（昨年十一月号の）たより十五ページのK刑Mさんの記事を読み、ひどい誤解だと驚きました。最初はとんでもない思い違いだ、と笑ったのですが、冷静に考えてみますと、なぜこのような誤解が起きるのかよく考える必要があると思いました。原因はいくつかあると思います。一つはもちろん官の情報不足でしょう。マザーハウスもこっそり活動しているわけではないのですから、官も、新聞や雑誌、ホームページ、たよりに目を通し、どのような団体で、どのような活動をしているのか、学ぶべきだと思います。少なくとも、外部交通を担当する分類や処遇の者は知っておくべきことです。

もう一つの理由は、五十嵐さんの言動でしょう。五十嵐さんは受刑者のためにマザーハウス代表として、いろいろな活動されていますが、すべて受刑者の改善更生、社会復帰のため。しかし、官からすれば、煙たい存在であることもまた事実です。特に何もしたがない職員にとっては、「うるさいことを言うヤツ」と映っているのかもしれない。とはいっても、すべての職員がそうではありません。受刑者のため熱心に動いてくれる人もい

ますし、ここでは、マザーハウスに否定的な言動をとられたことは一度もありません。入会手続きのときも、毎年の年会費を切手で送るときも、またMLPの方を親族等申告票に登録するときも、フツーにきちんと処理してくれます。それどころか、これらの手続きの願箋を書く際、相談に応じてくれたり、書き方（こう書いたらいいよ等）を教えてくださいします。有難いです。

しかし、やはり大きな原因の一つとして、私たち受刑者の言動があるのではないかと考えられます。つまり、マザーハウスに「おかしなこと」を頼む受刑者たちです。例えば、マザーハウスに「女の人と文通したいので紹介してください」と手紙を出した者がいるとしましょう。もちろんマザーハウスは、そういった紹介サービスはしていませんが、手紙を出す際、その検閲を行った職員はどう思うでしょう。「〇〇刑務所に務めている友達に〇〇を送って下さい」という手紙を見たら？果たして、そういったマザーハウスの趣旨とは全く違うことをお願いしている「おかしな内容」の手紙を検閲した職員はどう思うでしょう。マザーハウスはこういう団体なのだと思うかもしれません。マザーハウスがそういった「おかしな内容」のお願いを断ったとしても、照らし合わせて内容を確認するわけではありませんから、記憶には残らないのかもしれません。むしろ、受刑者が出す手紙に

こそ検閲の力は注がれており、その依頼内容は誤解の原因に十分なり得ると思います。つまりは、マザーハウスのイメージのために、会員一人ひとりが言動に注意する必要がありますのです。まだ見ぬ会員のために、ボランティアアスタツフのために、私たち一人ひとりがマザーハウスをより良いものにしていかなければならないのです。

出逢いを大切に

丁刑 Fさん

自分はご存知の通り、今は塀の中ですが、逮捕される二日前に、偶然にもカトリック教会を訪れています。とは言っても、その時は信者ではないし、正直キリストの事もよく分からないう感じでした。

訪れたのは、自分の地元になるYのK教会でした。訪れた理由は、毎週行われていた炊き出しに、という単純なものでした。それでも自分はちよつとした縁を感じるし、今回のこの出逢いを大切にしたいと思っています。よろしくお願い致します。

自分は最初の刑務所生活が終わると、地元のKに戻り、仮釈放の期間はアルバイトなどをして生活していました。しかし仮釈放の期

間が終わるとすぐに、自分はFに行きました。復興の仕事をするためのものです。ご存知かもしれませんが、Fの仕事（自分は、住宅等の周りの草・木・土などの撤去をする作業員）は一日あたりの日給がすごく良く、宿泊費・食事代・作業服などが無料で、二年間でお金を貯めることができ、地元に戻って来て、知り合いの不動産屋から安くマンションを買うことができたのでした。そのマンションから歩いて一・二分のところにあるのがKカトリック教会です。このことに縁を感じる自分です。

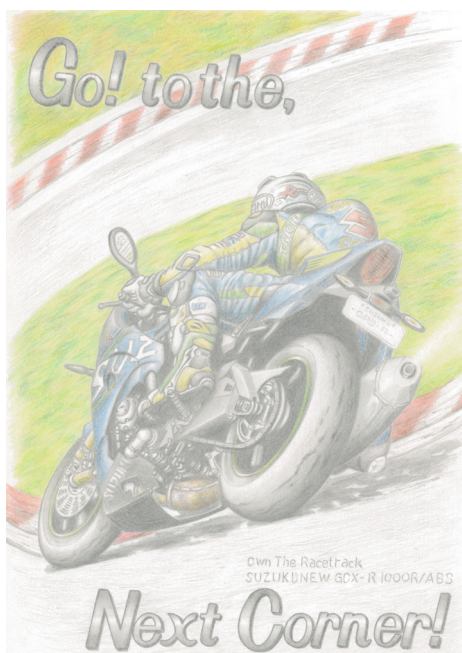
こんな近くでなければ、名称を知らないばかりか存在自体も知ることは恐らくなかったでしょう。こういうことにも「感謝」「ありがとう」の自分であります。

そうは言っても、自分がマンションに住んですぐKカトリック教会のことを知ったわけではありませんでした。ここから少し余談も入ってしまいましたが、Kカトリック教会の存在を知ることとなった話を書かせて頂きます。

地元のYに帰ってから、マンションが決まるまで安いビジネスホテルに泊まっていました。自分は冬の温泉好きなので、色々なところを巡り、ゆっくりのんびりしていました。その後は十日ほどでマンションも決まり、仕事の方は知り合いの紹介でリフォーム・店舗

設計（自分は長い間、内装工事店を経営していて、一応、建築二級士です）の会社で働くことになったのでした。そうして地元に戻って来てから約一か月で、住む所・仕事が見つかり、新たな生活が始まったのでした。しかしまだこの時点では、Kカトリック教会のこととは知りません。

仕事は、今までの経験を活かして現場の管理、材料出し、図面というものでしたが、自分の希望もあり、木曜日に休みということになりました。なぜ木曜日かというと、会社の人たちには話をしていませんが、前述通り、自分は温泉が大好きなので、週末だと温泉が込みますが、平日、特に木曜日は人が少ないというのが理由でした。この木曜日という日が偶然をもたらしってくれるのでした。



熊本の貴水さん

会社の二回目の休みの日のことでした。この日のことは今でもよく覚えています。朝早くから営業している温泉に行き、楽しみました。その後はこの温泉場からすぐ近くにある、自分の母親がいる老人ホームを訪れ、楽しく話をします。そして老人ホームを後にして、向かったところはカラオケ屋でした。今流行？のひとりカラオケというやつです。昼飯時ということで、食事をするのはもちろんのこと、この時は気分が良かったので、アルコールも口にしてしまったのでした。先に言うておきますが、自分はアルコール中毒ではないし、この時はたまたまで、普段はあまり酒を口にしません。そしてこの日は、いつもは車なのに自転車での行動でした。ここにも縁を感じる自分です。

この時はかなり酔ってしまったので、カラオケ屋からマンションまでの帰路、歩いて十五分くらいの道のりを、自転車に乗らず自転車を引いて歩いたのでした。すると、マンションに到着する寸前に、多くの人たちが一つの場所に向かっていく姿が見えました。自分も気になり、後について行くと、そこが偶然にもKカトリック教会なのでした。それまで、歩いて一〇二分という距離にもかかわらず、自分はその存在を知りませんでした。そのとき行われていたのが、毎週木曜の炊き出しです。ここまで幾つかの偶然が重なり、自分はKカトリック教会のことを初めて知ったわけです。

休みが木曜日でなかったら…車での行動だったら…酒を飲んでいなかったら…どうなっていたか…？その後、自分は最初のうちはただ食べるだけでしたが、途中からは、料理とかはしませんでしたが、会場のテーブル・椅子の設置、片づけなどをさせてもらいました。しかし、この頃はキリストに興味もなく、ただ単に木曜日に行われる炊き出しに参加するだけでした。勿体ない…。

こんなことがあり、縁を感じる自分ですが、マザーハウスのことを知ったのはつい最近のことです。三か月ほど前、満期で出所する人がいて、特に仲が良かったというわけでは無かったのですが、たまたま隣の席で、出所する際に荷物になってしまいうからと、プレゼントとしてカトリック教会に関する本を頂いたのでした。その方と話をしたところ、マザーハウスのことを教えてくれて今こうして手紙を書いているのです。この出逢いを大切にしていきたいです。

テレビでMLPの紹介を見て

Y刑 Yさん

九月十三日金曜日、夜八時からNHK・Eテレ「人生レシビ」という番組で、MLPに参加されている女性がクローズ・アップされ

ていました。たまたまザッピングしていると、「受刑者との文通ボランティア」というテロップが目に入り、注目していると、やはりマザーハウスのボランティアの方でした。

私もMLPのお世話で文通させて頂いておりますが、他の当事者二人の手紙のやり取りを、一部分とは申せ、実際に目にする事ができたのは、神の引き合わせの賜物であろうと感謝する次第です。ラストに元受刑者等と餃子パーティーをするシーンで、中央で、赤っぱい服装で食事をしていたのは、もしかすると五十嵐さんではないですか？（一瞬しか映らなかったなので確証はないのですが）

Eテレ（昔の教育テレビですね）は、普段から割によく観ております。Y刑のテレビ視聴は原則自由チャンネルですし、私は単独室なので、気兼ねなくEテレを観られます。土曜日午後一時からの「こころの時間」や「手話講座」「パラ・スポーツ」等々…一番楽しみなのは、「基」の番組です。

最初のイメージに引きずられない

御禿様さん

懲役は最初が肝心だ。最初で躓く（つまりずく）と、「デキない奴が来てしまった」「厄介

な奴だな」という負のイメージを持たれる(社会でも一緒だと思うが...)。中には本当にヤバイ輩もいるのだが、そうではない人もいる。「スロースターター」と言われる人種だ(以下、「タイプS」とする)。

特徴としては、「仕事を覚えて自分のモノにするまで時間がかかる」「環境に馴染むまで時間がかかる」などなど。そういう人は、少しずつだが、目立たないところで徐々に力を発揮していく。

しかし残念なことに、それに気付いてもらえないことがほとんどだ。何故なら、ほとんどの人間が、「最初の負のイメージ」に引きずられていて、その人に正当な評価を与えられないのだ。こればかりは致し方ない。「人を見る目がある」というスキルを持つ人間はごく限られている。ほとんどの人間が、主観・偏見・固定観念によって物事(人)を判断するからだ。なので、「タイプS」はいつも不遇を味わう。しかし、そこで終わらないのが「タイプS」の恐いところ。恐ろしく執念深いのだ。淡々と肅々と、虎視眈々と、自分を見下してきた連中をマク(※追いこむ、一泡吹かせる、立場が逆転する、といったような意味)時までひたすら牙と爪を磨きながら、目の前にある「すべきこと」をクリアしていく。バカになり、無知を装い、ただ黙々と...

だから人を一時の印象で評価してはならない

い。短いスパンで評価を修正し続けなければいけない。でないと痛い目を見る。「デキない」と思っていた同僚にマクられ、いつの間にか立場が逆転していたり...。どの工場・職場にも、一人は「タイプS」がいる。

今一度、偏見等を捨てて周りを見てみて、身近な人との関係を構築し直してみると、今まで気付かなかったことが発見できたり、自分の新境地を開拓できたりするかもしれない。

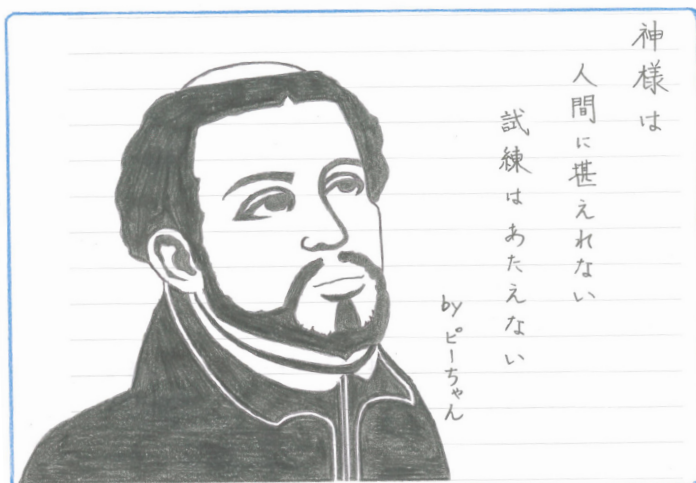
人生の意味は他者との関わり

によってこそ見出される

丁刑 Yさん

クリスマスカードについては、ほとんどが、キリスト教とは関係のない学生や子どもたちが書いてくださったものだど知り、いつも以上に大きな愛を感じました。心が満たされるというのは、ああいうことを言うのでしょ。まるで希望と勇気がわいてくるように、人と関わることの大切さを考えさせられました。一通の手紙がこれほど人を励まし、生きる力と勇気を与えらるという事実を、自らが身をもって体験することで、自分も誰かのためになる人生を歩みたい、という思いを新たにさせられたのです。

私は、ある人の人生はその当人にとってだけでなく、その当人以外の誰かにとっても意味を持つものだと思います。そのような関わりの中で思うのは、むしろ他者によってこそ、その人(私)の人生の意味が見出され、他者によって意味が与えられるといった本質があるように感じるので。マザーハウスで常々使われている「あなたが大切である」という一見シンプルな言葉の中には、たくさんの方の意味が詰まっており、そう言ってくれる、思ってくれる人がいることで、個々の人の人生は初めて意味を持つといえるし、充実するのではないかと思うのです。



大阪のピーちゃんさん

「塀の中のたより」のボリューム少なめ版です

つぶやき！

毎月、マザーハウスたより等を送って下さり有難うございます。独居で「一人」ぼっちですけど、「独り」じゃないと思え、とても気持ち温かくなります。毎週一回の薬物依存離脱指導で自分の薬物の問題と向き合い、出所後の生活を具体的に考えていこうと思います。(A刑 Kさん)

昨年のクリスマスにカードをお送り頂きまして有難うございました。各ミッシェンズクールにお願いしてくださったようですが、ほとんどが無視で、キリスト教と関係のない人たちが書いてくださったものだと思い、びっくりしましたが、逆に考えて私は、「キリスト教のところだけが私たち(受刑者)の更生を祈ってくださっているのではない」と嬉しく思いました。(O刑 Iさん)

先日、所内にて、クリスマス集会が開かれましたので、出席させてもらいました。某キ

リスト大学の学生さん達が冷たい雨の中、わざわざ来て下さって、聖歌を歌ったり、キリストご生誕の小劇を演じてくださったたりして、小一時間、楽しく過ごさせてもらいました。「主よ、来ませり」と、私も皆と一緒に歌いました。残念なのは、クリスマスはまだ半月以上も先ですが…。(C刑 Sさん)

可愛い子供たちのプリントされた年賀状を頂き、有難うございました。早速、写真立ての中に入れて、棚に飾りました。写真立てを六個も持っているんですが、独居の棚は、雑居と違って狭いので、五個しか飾れませんが、とても賑やかです。また、今年はネズミにあてはまる「子」年ですが、「子」の漢字は「一」と「了」でできているから、始まりと終わりをあらわしているそうです。今まで頑張ってきたことを継続し、さらに深めると良い年になるそうです。(K刑 Sさん)

私の誕生日のお祝いの言葉を送って頂きまして、誠に有難うございました。感謝です。とても嬉しかったです！だって、こんな私みたいな：犯罪者なのに、バースデーのメッセージをくれる人なんていないと思っていたからです。とても嬉しかったです(涙)。今の私は、社会どころか…面会などは全くなく、一切、連絡等は来ていません。そういうことをしたのは、ほかでもない私が、悪いことをしたからです。だから、仕方がないですね。

ブログ：<https://ameblo.jp/npo-motherhouse/>

五十嵐亜利沙(妻)による

Lovely DAYS

長女と次女を妊娠した時、悪阻(つわり)がとても酷く、飢餓状態で入院したので、四人目の妊娠が分かり、覚悟を決めました。案の定だんだんと具合が悪くなってきたのですが、以前からケリー・ハンプトンさんという方(エネルギー・ヒーラーの先生です)のセミナーに申込みをしていたので、具合が悪い中、なんとか参加しました。そこで、ケリーさんが大天使ミカエルとチャネリング(※メッセージを受け取る方法の一つ)をして、ミカエルが会場にいた一人ひとりにギフトをくれました。目には見えなかったのですが、受け取った瞬間、身体がぞわぞわして、鳥肌がたちました。次の日起きると、昨日とは打って変わって悪阻が軽くなったように感じました。体調が悪い私に変わって、当事者さんが長男の幼稚園の送り迎えをしてくれたり、発表会を見に行ってくれたり、とても助けられています。悪阻は辛いですが、周りの優しさに気づくことができ、これも神様からのギフトだと思いました。

毎朝ある軍隊行進曲にはうんざりしています。が：それでも、元気に通勤して、楽しい金属加工の仕事をしています。ここは車のエンジン内部の部品の磨きをやっています。(G刑 Mさん)

「ハッピーバレンタイン」



★このコーナーは、絵画の模写を体験するものであり、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。

★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため必ずご相談ください。

【今月号の「シ」Valentine'sのアート文字は筆記体風のアート文字ですが、一文字ずつ描きながら繋げていくと描きやすいです。文字の周りに描かれた薔薇の花も、一つずつ、葉っぱの数と合わせながら、バランスを考えて描いてみてください。

バレンタインは、恋人同士だけのものではなく、友人、家族、その他お世話になった方々へ、感謝の気持ちを贈る日でもあります。「皆さん、いつも、どうもありがとうございます」という感謝と、温かい気持ちを込めて、描いてみてください。

形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。見本の絵と全く同じではなく、アレンジして、楽しく描いてください。絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、自由に、楽しみながら、表現されてください。

【解説】 ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いてくださって結構です。ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、形が見やすいように、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思えます。

文通をされている方は、見本の絵を色々とアレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試しください。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

緑内障

寒い日が続きますが、体調崩されていませんか。健康維持増進ケアモデルの通信教育を受けられている方は、講座は順調に進んでいますでしょうか？また、残刑二年未満の方に関しても、是非、健康講座を受けて頂きたいので、テキストはコピーになってしまいました。が、お送りすることに致しました。しばらくお待ちください。

昨年十二月、ある施設でのケアモデルの第一回（全四回）の講座が無事に修了し、一月下旬から第二回目が始まります。受講生の皆さまの目がキラキラと輝いておられ、私も勇氣と自信を頂いています。全国のそれぞれの施設にも足が運べるように、現在、関係部署と調整を重ねています。どこかで健康維持増進ケアという講座受講募集を見かけましたら、是非ご参加ください。

今月は、「緑内障」についてお伝えしたいと思います。緑内障は、失明原因の第一位です。「白内障」「緑内障」は、高齢になると多くなってくる目の病気です。

緑内障とは、目から入ってきた情報を脳に伝達する視神経という器官に障害が起こり、視野（見える範囲）が狭くなる病気です。障害の部位によって、視野の欠損、視力の低下などが生じます。徐々に進行するため、自覚症状がほとんどありません。高齢になるほど、「緑内障」になりやすく、四十歳以上で五パーセント、五十歳以上で十パーセントという割合を示しています。要因として、近視や加齢、また、家族に緑内障の病歴があることが知られています。特に近視が強い方は注意が必要です。

診断には、「眼圧検査」「眼底検査」「視野検査」などを行います。治療方法は、基本として、眼圧を下げる目薬を点眼することになります。プロスタグランジンといわれる目薬がよく使われます。目薬で治療をし、視野などの変化をみますが、進行していれば手術も必要となります。緑内障は進行する病気のため、点眼薬による治療を中断してはいけません。

五感から得る情報の八割以上が視覚を通して集められます。目は大切な感覚器官です。見え方に異常がある場合、担当者に、いつ頃

から、どのように見えにくいのかをお伝えし、是非、早めに診察してもらえればと思います。また、現在、緑内障で点眼治療されている方は、ご自身の目の状態に注意してくださいね。施設を卒業した後は、自分の目で見て様々なことを判断しないといけません。目も大切にしましょう。

見え方の変化（右眼）



初期



中期



末期

参考： 緑内障 目の病気百科

<https://www.santen.co.jp/ja/healthcare/eye/library/glaucoma/>

回復プログラム 入門

★このコーナーでは、自分の心を書き出す練習をします。マザーハウスの回復プログラムに既に挑戦しておられる方も、ぜひ取り組んでみてください。

【コツ】綺麗に書こう、丁寧に書こうとせず、リラックスして、出てきた思いをそのまま乱雑に書き出す。後でやろうと思わず、数行書くだけでも、今やってみる。

【補足】よろしければ、書いた内容を編集局にお送りくだされば幸いです（基本的にはたより掲載の予定ですので、掲載を希望しない方は掲載不可と明記してください）。また、ノート等に写し、後で見返せるようにすることをおすすめ致します。

★今月号のテーマ：【楽しい】

- ① 私はどんな時に「楽しい」と感じますか。
- ② 「楽しい」と感じる時、私の心や身体の状態はどのようなになっていますか。
- ③ 「楽しい」と感じる時、私の他者に対する言動に何か変化はありますか。

みんなの！回復プログラム入門

【「こわい」(昨年九月号)】

- ①今までで最も「こわい」と感じた経験は何ですか。
- ②私はよく、どんなときに「こわい」と感じますか。また、「こわい」と感じるとき、私はいつもどうなりますか(体の状態、心の状態など)。
- ③「こわい」と感じたなら、私はいつもどういう行動を取りますか。その行動を取ると、どうなりますか。

☆

- ①東日本大震災の時、別件で逮捕されていて、当日は検事調べで東京裁判所地下の待合室にいたのですが、揺れた途端、警察官がいつせいにその場からいなくなった時は、見捨てられたと思い恐くなった。
- ②自分の将来を考えて、どんな老後を送るのかと思う時、絶望感を感じて憂鬱になる。
- ③家族に囲まれて楽しく過ごす自分を想像す

る。頑張ろうという気持ちになり、気が楽になる。

(N刑 Kさん)

【「ビックリ」(昨年十月号)】

- ①最近、ビックリしたことは何ですか。
- ②その時の、私の身体の様子(鳥肌や動悸など)と、心の動き(感情など)を思い出してみましよう。
- ③これまでで最もビックリしたことは何ですか。何故、それが印象に残っているのでしょうか。

☆

- ①工場で私の班の班長が急に降りて、私が班長に任命された事。
- ②息が一瞬止まった。不安と何があったのかという気持ちでソワソワした。
- ③弟とその家族(妻と姪)が面会に来てくれた事。弟だけならまだしも、妻と姪っ子まで来た事が嬉しい反面で、こんな自分を見られて恥ずかしさもあったから。

(N刑 Kさん)

☆

- ①検事調べが二回中止となっていて、三回目があると思っていたら、突然起訴状が送ら

れてきた事。

- ②瞬間、茫然自失となり、次に喜びが：増し刑になるのに、獄の獄から一年過ぎてやっと脱出できる喜びが湧いてきた。

- ③飛び降り自殺した時に、救急車に運ばれる自分を上空から見ている、嫁と話もしている、誰がどこに座っていてどのような話をしていたかを話したら、それが夢でなく現実にあった事だった事。

(K刑 Mさん)

【泣きたい時】(昨年十一月号)

- ①今、「泣きたい」と思うことはありませんか。それはどんなことですか。
- ②今までを振り返ってみて、私がよく「泣きたい」と思うのは、どのようなときが多いですか。
- ③「泣きたい」と思ったとき、実際に泣きますか。また、泣いた後は、どんな気分になりますか。

☆

- ①被害者の家族がどんな気持ちだったのか考える時。
- ②他人を裏切る様な事をしてしまった時や、自分が言った事や行動で相手を傷つけた後、その事を思い出す時。
- ③泣いても何の解決にもならないと思い、我

慢して、泣く事はない。

(N刑 Kさん)

【幸せな時】(昨年十二月号)

- ① 最近、「幸せだな」と感じたことはありますか。それはどのようなことでしたか。
- ② 私の言葉や行動が誰かの幸せに繋がった、と思えたことはありますか。それはどのようなことですか。
- ③ 誰かの言葉や行動によって幸せを感じたことはありますか。それはどのようなことですか。

☆

① マザーハウスや文通相手、両親、カウンセラーが、私の更生を願い惜しみなく更生の助言をくださることで。

② ものすごく悩みます。ハッキリと申して、ここ(刑務所)に入所するきっかけでさえ、人の不幸につながることをして入ってきている者ばかりの集まりで、「この人のために……」と思ってやったつもりでも、相手からしたら「嫌がらせか!」と思われたりするのです、そう思えることが少ないですが、「プリズムアート倶楽部」で絵の事が書いてあるのを拝見し、少し前から文通相手に絵を便箋に書いて喜んでいただけた事が唯一幸せにつながった事だと思っています。

行事予定

▼2/18 14:00～

千代田区役所にて、
石川区長と面談(再犯防止について)

▼2/22 15:00～

マリア・カフェにて、理事会

▼2/27 18:00～

龍谷大学にて、
APS研究会(in 京都)

▼2/29 14:00～

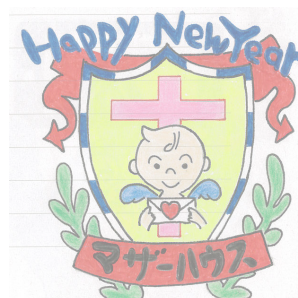
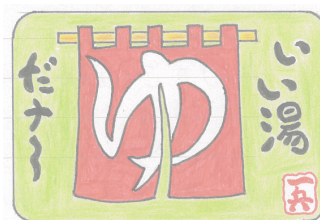
聖イグナチオ教会内 岐部ホールにて、
VIPプリズム講演会(参加自由)

▼3/1 14:00～

龍谷大学 紫光館にて、
円卓「受刑者の健康と刑務所生活
～マザーハウス健康調査報告書～」
(参加自由)

▼3/4 18:00～

マリア・カフェにて、
当事者ミーティング



一兵さん

③ 上記の事にもつながりますが、ここでの生活ではほぼ無いと思います：日々「足元をすくわれないように……」と思い慎重に生活しているの、生きているので精一杯です。ただ、両親と気持ちに分かり合えるように最近なってきたので、それが一番幸せです。

(O刑 Iさん)

ご支援 本当にありがとうございます!

2019年12月15日～2020年1月20日の寄付金
(内訳不明分も寄付金として含んでおります)

合計: 607,000 円

(内 愛のプリズム宣教基金: 4,200 円)

編集後記 by 編集局

ちょうどたより2月号の製作に入ったあたりから、また一段と寒くなり、風もとても冷たくなりました。「動きたくない……! 永遠に布団の中になりたい……!」という葛藤と戦い続けて完成したたより2月号、ご堪能ください!

お知らせ

【重要】移送・出所ではないのに、様々な事情により刑務所からたよりが戻ってくる場合が稀にあります。たよりが戻ってきた方には次号が送られないので、万が一、突然送られなくなった場合は、お手数ですがご連絡ください。

- ・また、入会時に登録された出所日が過ぎた場合もたよりが送られなくなりますので、刑期が変更になった方はご連絡ください。

○聖書（寄贈された中古のものです）をご希望の受刑者の方は、郵送料800円分の現金書留または切手を、「聖書希望」と明記したお手紙と一緒に送りください。

○年金に関する手続きをご希望の方には、年金関係の書類を送りしております。

○身元引受不許可に関するお問合せが多いですが、マザーハウスでも詳細が不明なため、観察所に直接お問合せ願います。

- ・決定を出してもらえよう、当法人側でも尽力しておりますが、受刑者の皆さんからも観察所へアプローチして頂ければと思います。
- ・なお、有期刑の場合、マザーハウスでやり直したい！という方は満期出所後のサポートも可能です。出所日の朝に必ずお電話ください。ただし、あくまで当分の住居や仕事がほしいだけ、という方はご遠慮くださいませ。

【NEW】 たよりのコンセプトは、刑務所と社会の双方に向けて、「こういう意見・思いが届いています」と発信して橋渡しをすることなので、「すごく共感できる」「勉強になった」と感じることもあれば、「なんだか自分の考えや感性と違うな」と感じることもある

かと思います。こういう考え・感性の人が刑務所・社会にいて、マザーハウスを通して自分と繋がりを持っているんだなあ、という感覚で読んで頂ければ幸いです。

- ・決して、「全員が見倣うべき正しい考え・感性をたよりに載せている」という方針ではないので（もちろん素敵な文章や作品はなるべく掲載させて頂きますが！）、たよりを読んで、率直に感じた自分の心の動きを見つめるため、また、刑務所や社会にいる人々に触れて知って繋がるための、一つのツールとして、自由に役立ててくだされば嬉しいです。
- ・そして、ありのままの素直な文章を届けたい、ということから、投稿文以外の普段の（事務局宛の）お手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）。ですので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、よろしくお願い致します。
- ・なお、たよりはマザーハウスのホームページでも公開されます。

【重要】 現在、会計と事務局が独立しているため、入会申込書等の書類が揃わないと、会費を納めていても会員登録ができていない場合がありますので、ご注意ください。

- ・また、受刑者の方で、準会員費や寄付を送って頂いた方には、2か月以内に受領のお知らせを送りしておりますが、こちらも事務局と会計が独立していることによって、送りできていない場合がございます（特に、現金書留だったり金額が大きかったりした場合など。一度嚴重に保管されるため）。お手数ですが、受領のお知らせが届かず、確認をご希望の方はお知らせください。
- ・なお、領収書の発行は、現金で納付した場合のみとなります（受領書は全員に発行）。

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 900円+税
カフェドリップ10g (1回分) …… 100円+税



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック
所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／
カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中
和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会
／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙
台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／
カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カト
リック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリッ
ク芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社
／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺
がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワ
ンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥り
かねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。
マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用し
ております。

獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、
ポストカード・封筒・便箋に印刷する企画です。

FAX: 03-6659-5270

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

入手方法: 講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード／封筒は1枚300円、便箋は10枚300円

☆ホームページにカタログ（随時更新）がございます。

☆収益は全て、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。

また、ご寄付・ご支援くださった方に、デザイン等ランダム
でお贈りしております。



マザーハウスたより 20'2月号

発行日: 2020年2月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-17-102 NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長奥さんブログ ↑ MLP問合せ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、
掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

TEL: 080-4614-8508

FAX: 03-6659-5270

メール: lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付頂くと、

マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぽん係

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL: 0120-29-7000

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。

※価格は別途かかります。

メール: counseling@motherhouse-jp.org (QR ↓)



お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員（一口5000円／年） ☆賛助会員（一口3000円）

☆社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ）マザーハウス】

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)